

1 京田辺市の概況

(1) 沿革

本市の歴史は古く、早くから文化の開けたところであり、市内には古墳群や数多くの遺跡が発見されています。また、繼体天皇の時代には「筒城宮」つつきのみやが置かれました。

奈良時代には山陽道の山本駅が設けられ、交通の要衝として開けていました。また、市のシンボルである甘南備山は、平安京造営に際し、基準点として利用されました。平安末期から戦国時代にかけては、応仁の乱、山城国一揆などの戦乱の舞台となるとともに、源平の戦乱の時代に閑白職にあった近衛基通公や一休禅師らが、この地を愛し晩年を過ごしています。

明治 31(1898) 年には、現在の J R 片町線である関西鉄道が開通し、田辺駅（現京田辺駅）が設置されました。また、昭和 3(1928) 年には、奈良電気鉄道（現近畿日本鉄道京都線）が開通し鉄道の整備が進みました。国道 307 号などの幹線道路も開通し、南山城地域の中心地として発展してきました。

昭和 61(1986) 年には、同志社大学及び同志社女子大学が開校し、大学の町としての顔をもち、平成 7(1995) 年の国勢調査の結果、人口が 5 万人を超える、平成 9(1997) 年 4 月 1 日に京田辺市として市制を施行し、南山城地方の行政、経済、文化、交通の中心として、また、関西文化学術研究都市の一翼を担う町として発展を続けています。

(2) 位置

本市は、京都府の南西部（東経 135 度 46 分、北緯 34 度 49 分）に位置し、東は木津川をはさんで城陽市、井手町に接し、西は生駒山系の北端、甘南備山系により、大阪府枚方市、奈良県生駒市と境を分かち、北は八幡市、南は精華町と接し、市域は東西 5.5 km、南北 10.9 km、総面積 42.94 km²です。

市の中心部から直線距離で、京都市へ約 22 km、大阪市へ約 28 km、奈良市へ約 17 km の距離に位置しています。

本市の地形は、西部は生駒山系に連なる丘陵地であり、東部は淀川の三大支流のひとつである木津川が作り上げた沖積地からなる平野であり、甘南備山の麓から扇状に広がった東斜面の不等辺三角形を成しています。丘陵地から低地に至る緩傾斜地帯には、集落が多く分布し、四季それぞれに特色を持つ良好な自然環境に恵まれています。